



平成26年の年頭あいさつ	1ページ
院長室だより「第17回 日本ワクチン学会学術集会を開催して」/「糖尿病教室1月」のお知らせ	2ページ
ノロウイルス感染症/医療安全管理室からのお知らせ	3ページ
医療福祉相談室だより/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

平成26年の年頭あいさつ

院長 庵原俊昭

みなさん、「あけましておめでとうございます」。新しい年を迎え、今年一年大過なく過ごせるよう、氏神様にまいられたことと思います。私も、この一年三重病院が躍動するよう祈ってきました。

昨年度、当院の大きなイベントとして、一つ目は4月から電子カルテを導入したことです。導入に伴い、各部署で混乱があったかと思いますが、半年を経過するとスムーズに動くようになりました。電子カルテ導入に伴い入院患者数に影響があった病棟もありましたが、今は入院患者数も増加しています。今年の課題は、医療機能評価に向けてのシステムの整備です。皆様の御協力をよろしくお願いします。

二つ目の大きなイベントは、三重県こども心身発達医療センター(仮称)が三重病院に隣接して建築されることが決まったことです。こども心身発達医療センター(仮称)では、こどもの心の医療と小児整形外科のリハビリテーションが中心となります。また、市町の福祉部門と連携し、地域でのこどもの心身発達支援を行います。三重病院とは医療だけではなく、スタッフの交流・育成を行い、三重県下のこどもの医療を高めることを目指しています。今年からいよいよ建設工事が始まります。事故には十分注意してください。

三つ目のイベントは第17回日本ワクチン学会学術集会を、私が会長となり津市で開催したことです(2ページ参照)。日本ワクチン学会は2年前に亡くなられた神谷名誉院長が創設に加わった学会です。神谷先生が三重県医師会や三重県と協力して作られた三重県のワクチンシステムは、日本の最先端を走っています。三重県内の施設から多くの方にご参加いただきました。ありがとうございます。今年は藤澤副院長が会長となって日本小児アレルギー学会を四日市市で開催します。皆様の御協力をお願いします。

最後になりますが、三重病院が医療機関として地域社会の負託に応えるには、医療機器や医療システムを更新していく必要があります。経営基盤の充実と経営戦略の構築は避けられない課題です。また、そのためには皆さんの体と心の健康が大切です。応接間に緑ヶ丘特別支援学校の教頭先生から新しい額を寄贈していただきました。「自立共生」と書かれています。同じベクトルに向かって今年も進んでいきましょう。